3/13 マルコの福音書 11 章 1-11 節「子ろばに乗られたイエス・キリスト」

小池 宏明 牧師

今日の聖書箇所は、イエス様のエルサレム入城の場面で、受難週の始まりの出来事である。私たちの主イエス様は、十字架を目前にして、何を語り、何をなされたのか注目しながら受難週（4 月 10 日）を迎えたい。

＊主は備えておられる

イエス様は、エルサレムの都を見下ろすことができるオリーブ山のふもとの町まで来た時、二人の弟子を使いに出した。イエス様は彼らに「誰も乗ったことがない子ろばがつながれているから引いて来なさい」と命じた。（1-6 節）弟子たちは、半信半疑だったかもしないが、主が命じておられるのならと、ともかく実行してみた。するとイエス様の語られたとおりになった。弟子たちは、主が語られたとおりに実現する体験をして信仰が強くなっていくのだ。私たちも、主の御ことばを聞いたならば実行してみることが大切なのだ。主イエス様が、あらかじめ備えていてくださるからだ。

＊平和の王としてのキリスト

主イエス様は、エルサレム入城の時に、小さなろばに乗られた。それは、旧約聖書の預言が実現するためだった。ゼカリヤ書 9 章 9 節「**娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。**」エルサレムの人々は、この預言が実現していることを目の当たりにして、エルサレムの王様が凱旋したことを大歓迎して迎えた。ろばは、「平和」と「愛」を象徴していた。それに対して、馬は、王様の乗り物でもあるが、軍馬（戦車）として戦争に用いられていて、戦うイメージが強い。主イエス様は、この世の王（権力者）のように政治的、軍事的な指導者ではなく、平和をもたらす、特に神様との和解、救いをもたらす平和の君、恵み深い主なる神様として来られたことを、堂々と証ししておられた。

今、私たち一人ひとりの前にある戦いは何か考えよう。自分自身との葛藤、家族や学校、職場での不和、行き違い、そして先行きの不安、世界を見れば、暴力や戦争が横行している。私たちは、そのような葛藤や戦いにどのように打ち勝つことができるだろうか？力ではなく、主の愛と正義によって、平和が来るように、和解がなされるように、祈り求めよう。